

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究
分担研究報告書

研究計画：急性肝不全に対する人工肝補助療法の現状に関するアンケート調査

研究協力者 安部 隆三 千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学 准教授

研究要旨：

本研究は急性肝不全に対する人工肝補助療法の現状を調査し、その有効性を検証することを目的とする。今回、急性肝不全に対する人工肝補助療法の現状に関するアンケート調査を開始する。

共同研究者

大村 拓 (千葉大学 助教)

人工肝補助 WG

滝川康裕 (岩手医科大学 教授)

井上和明 (国際医療福祉大学 教授)

中山伸朗 (埼玉医科大学 准教授)

A. 研究目的

昏睡型急性肝不全症例の内科的救命率には改善していない。これまで本研究班から、人工肝補助療法に関する提言や診療ガイドを発行してきたが、それらがどの程度浸透し、どのような治療成績につながっているかは明らかでない。そこで、本邦の人工肝補助療法の実施状況と治療成績を調査することで、現状を把握し救命率向上につながる対策を講じること、またより有効な人工肝補助療法を確立することを企図して、本研究を計画した。

B. 研究方法

2018年1月-2020年12月の3年間に各施設で診療した昏睡型急性肝不全例について人工肝補助療法の現状に関するアンケート調査を行う。

アンケートの対象は、本研究班による全国調査対象施設（日本消化器病学会、日本肝臓学会の評議員・役員所属施設、および救急科専門医指定施設、救命救急センター）のうち、全国調査にて昏睡型急性肝不全症例の診療を行ったと回答した施設とする。

アンケート項目は、以下の通りである。医師が回答する部分と臨床工学技士が回答する部分に分けて、以下の情報を収集する。

I. 症例数

症例数、人工肝補助療法施行例数、意識覚醒例数、内科的治療例数（生存、死亡）、肝移植例数（生存、死亡）

II. 人工肝補助療法の現状

- (1) 主に行っている人工肝補助療法
- (2) 人工肝補助の導入時期

III. 血漿交換療法 (PE) について

- (1) 施行方法、設定条件
- (2) PE の目的
- (3) 1例あたりの施行回数 (平均)

IV. 血液ろ過透析 (HDF) について

- (1) 施行方法、設定条件
- (2) HDF の目的
- (3) 1例あたりの施行回数 (平均)

V. その他の人工肝補助療法について

- (1) 施行方法, 設定条件
- (2) 目的
- (3) 1例あたりの施行回数 (平均)

なお, 本研究は千葉大学医学部附属病院倫理委員会に審査申請中であり, 承認後に実施する.

C. 研究結果

なし.

D. 考察

今年度中にアンケート調査を行い, 現状およびその治療効果に関して結果をまとめて, 報告する予定である.

E. 結論

急性肝不全に対する人工肝補助療法についてアンケート調査を行い, その有効性を検証する予定である.

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特になし